

日本医学会分科会活動報告

学会名(No. 116 ) 日本小児循環器学会

代表者名 山岸 敬幸

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- (ア) 小児循環器・先天性心疾患の診療・教育・研究に携わる小児科医、心臓血管外科医を中心として、医師・研究者・多領域専門職の会員からなる内科系・外科系合同の学会である。
- (イ) 11 の分科会を有し、当学会と有機的に連携して活発な学術活動を行っている。
- (ウ) 41 の地方会が当学会と連携して全国各地で学術活動を行っている。
- (エ) 小児循環器専門医は日本専門医機構サブスペシャルティ領域の認定申請中である。
- (オ) 和文機関誌「日本小児循環器学会雑誌」を年 4 回発行している。
- (カ) 英文機関誌「Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery」を年 2 回発行している。
- (キ) 診療ガイドラインの作成、改訂を学会独自または他の関連学会と連携して継続的に行っている。
- (ク) 年次学術集会を 60 年以上の歴史をもって開催している。
- (ケ) 学会員および関連医療従事者・研究者を対象とした教育セミナー（年 2 回）を開催している。
- (コ) 小児期発症心疾患実態調査を毎年実施し全国の修練施設からのデータを蓄積している。
- (サ) 公募による医学研究に対する研究資金の助成および人的支援・研究指導を実施している。

b. 当該領域における国際的な役割

- (ア) 約 2,500 名の内科系・外科系が一体となった医師・研究者・多領域専門職会員から構成される世界的に見てもユニークな学術組織である。
- (イ) 国際ジョイントセッションを以下の海外学会と相互に定期的で開催している。
  - ① American Heart Association (AHA) ② Association for European Paediatric and Congenital Cardiology (AEPC) ③ Taiwan Society of Pediatric Cardiology
- (ウ) 関連学会年次学術集会における共同セッションを定期的で開催している。
  - ① AHA ② AEPC ③ World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery (WCPCCS)
  - ④ Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society (APPCS)
- (エ) 国際学会の国内開催：Mt. Fuji Network Forum、Japan-China-Korea Pediatric Heart Forum
- (オ) 若手短期交換留学生制度として AEPC・AHA と相互に交換留学受け入れを実施している。
- (カ) Harmonization-by-Doing (HBD) for Children 活動に学会として参加し、以下の事業を国際連携の下に展開している。
  - ① Food and Drug Administration (FDA)、医薬品医療機器総合機構 (PMDA)、国内関連学会（日本先天性心疾患インターベンション学会）、海外関連学会（AHA、Society for Cardiovascular Angiography and Interventions (SCAI)、Pediatric and Congenital Interventional Cardiovascular Society (PICS))、日米の関連企業の産官学連携事業 ②小児治療デバイスの早期承認のための事業 ③小児医療機器の安全な導入を促進する事業

c.活動からもたらされる社会的な意義

- (ア) 「Academic for Social」のスローガンをもとに、広く一般市民に対して、小児循環器学についての学術的教育普及活動を通じて、医療水準の向上と人材の育成を図り、国民の健康増進に寄与する。
- (イ) 豊富な医学知識と高度な医療技術を備えた小児循環器専門医を育成することにより、先天性ないし発達期発症の循環器疾患を有する胎児、小児および成人の医学・医療を発展・向上させる。
- (ウ) 児童生徒に対する精密な心臓検診と適切な指導を行い、社会福祉に貢献する。
- (エ) 小児循環器領域における学術的根拠に基づいた診療報酬の適正化を促進する。
- (オ) COVID-19 禍においては、対策特別チームを設置して国民の感染予防に貢献した。
- (カ) 「全国心臓病の子どもを守る会」(患者会)との継続的な交流により、小児循環器・先天性心疾患領域の患者および家族の健康に寄与する。
- (キ) HBD for Children 活動により、device-lag や off-label use の小児治療デバイスについて産官学共同作業が促進され、必要な治療機器の導入が進んだ。
- (ク) 企業と契約を交わし、薬剤や医療機器の臨床試験を促進するシステムを構築し、実施困難であった小児臨床試験が進展した。臨床試験推進の成功事例として、厚生労働省・PMDA で紹介されている。
- (ケ) 移行医療制度設計において循環器関連学会と協力して政策提案を行っている。
- (コ) 「成育基本法」、「脳卒中・循環器病対策基本法」に則った政策に対する提言を行っている。

d.学会運営上留意している点

- (ア) 健全かつ透明性のある理事選挙を含めた学会運営と BCP
- (イ) 総会、評議員会、理事会によるガバナンスと会員との双方向性情報交換
- (ウ) 専門医制度の充実と良質な小児循環器専門医の育成、そして次世代小児心臓血管外科医の育成
- (エ) 小児循環器領域の働き方改革、地域・外科系/内科系・ダイバシティへの配慮
- (オ) 多領域専門職の融合のため、積極的な多領域学会員の理事、幹事、評議員への登用
- (カ) シームレスな小児から成人への移行医療の推進 (キ) 国際的な人材の育成

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

- (ア) 診療ガイドラインの合同作成への参加(日本循環器学会、日本小児科学会など)
- (イ) 移行医療や健康寿命延伸に関する政策提言(日本循環器学会および循環器連合)
- (ウ) 学術集会における共同・教育セッションの開催(日本循環器学会、日本小児科学会など)
- (エ) 他の分科会と合同の産官学連携による小児医療治療器具および薬剤の安全で効率的な導入(日本循環器学会など、FDA、PMDA、企業など)
- (オ) 成育基本法、脳卒中・循環器病対策基本法に対する提言の作成